

車両水没から命を守るための備えと行動

～令和8年8月千葉豪雨の教訓に基づく、防災講話用・家庭用保存版チラシ～

■ 千葉豪雨の教訓：ハザードマップ「想定外」の罠

2026年8月の「令和8年8月千葉豪雨」では、線状降水帯による猛烈な集中豪雨が発生し、千葉県内だけで一時は3,000台以上の水没・放置車両が発生しました。被害分析から浮き彫りになった、生存のための最大の教訓は以下の通りです。

- 被災した方の55.7%（2人に1人以上）が浸水想定区域の「外」でした：

ハザードマップで安全（着色なし）とされていた柏市や千葉市中央区などの地域でも、下水道等の処理能力を大幅に超える「内水氾濫（都市型水害）」が急激に発生しました。「色がついていない場所だから安全」という思い込みは絶対に捨てなければなりません。

- アンダーパスの絶対回避：

周囲より低いアンダーパスはわずか数分で冠水します。千葉豪雨でも、アンダーパスに停止した車内やその付近で複数名が犠牲となっています。「これくらいなら走れる」という安易な進入は極めて危険です。

■ 車両水没時の「命を守る脱出4ステップ」

ステップ1：ドアから避難	ステップ2：窓を開けて脱出	ステップ3：ハンマーで割る	ステップ4：水位同等で開ける
【ドアが開くうち】 浸水が床面を超える前に、急いでシートベルトを外してドアを開けて脱出します。早めの判断がすべてです。	【水圧で開かない場合】 浸水が進みドアが開かない場合、電気系統がショートして窓が動かなくなる前に、窓を開けて脱出します。	【窓が開かない場合】 ドアも窓も開かない場合は、「緊急脱出用ハンマー」で運転席のサイドガラスを叩き割って脱出します（フロントは割れません）。	【割る手段がない場合】 車内浸水が進み、車内外の水位（水圧）の差がなくなると、再びドアが開くようになります。大きく息を吸って押し開けます。

■ 【超重要】サイドガラスが「合わせガラス」の車にお乗りの方へ

脱出用ハンマーでも「絶対に割れないガラス」が存在します
フロントガラスはすべて「合わせガラス」ですが、近年は静粛性向上のため、運転席や助手席のサイドガラスにも合わせガラスを採用する車種が急増しています。このガラスは、緊急脱出用ハンマーを叩きつけてもヒビが入るだけで、絶対に破砕・貫通できません。

合わせガラス車における「二者択一」の生死のタイムライン：

サイドガラスが合わせガラスの車両にお乗りの方は、ハンマーによる破砕ができないため「ステップ3」が使えません。生存ルートは、極めて緊迫した以下の「二者択一の行動」しかありません。

避難の絶対境界（ステップ2まで）：電気系統がショートして窓が動かなくなる前に、直ちに窓を開けて脱出する。

最終生存賭け（ステップ4）：万が一、窓が開かず車内に閉じ込められたら、焦って叩き続けて体力を消耗してはいけません。車内がほぼ満水になり、内外の水圧差が消えてドアが開くようになる極限の瞬間を待ち、冷静にドアを押し開けるしかありません。

【結論】合わせガラス車にお乗りの方は、通常車以上に『水が上がる前に車を乗り捨てる』超早期の避難判断が絶対条件です！

■ 我が家の車両水没対策・セルフチェックリスト

- 愛車の「サイドガラス」の仕様を把握している：

窓を数センチ開けて断面を確認し「継ぎ目（合わせ）」があるか、またはガラスの四隅にある刻印マークが「TEMPERED（強化）」か「LAMINATED（合わせ）」かを確認している。あるいはディーラー等に直接確認している。

- 緊急脱出用ハンマーを「手が届く場所」に常備している：

浸水時は1秒を争うため、トランクやグローブボックス奥は厳禁。シートベルトをしたまま手が届く「運転席のドアポケット」等に固定している。

- 信頼できる脱出用ハンマーを選んでいる：

窓ガラスを破砕できない粗悪な製品を避け、JISマークやGSマークなどの性能保証表示がある製品、または販売店推奨品を使用している。

- 豪雨が予想される際は「不要不急の運転」を絶対に控える：

ハザードマップで安全とされている場所でも、大雨下では都市型水害が瞬時に発生することを家族全員で共有している。

本資料は、国土交通省・JAFの公式安全ガイドおよび令和8年8月千葉豪雨被災データに基づき作成されました。